

東北大学における被災対応と課題

東北大学副学長
北 村 幸 久

1

被災による被害概況

- 人的被害：学生3名（学外で津波被災）死亡
- 建物被害：危険 - 28棟 (4.7%)
要注意- 48棟 (8.2%)
安全 -521棟 (87.1%)
建替え・改修等で約448億円（概算）の損害
- 研究機器損害：352億円（概算）
- 学生の住居被害：住居全壊または一部損壊526名、
転居検討中331名
- ライフライン：電気、水道、ガスが長期にわたってストップ
- 生物系の研究室で多くの貴重な細胞・試料の喪失
（停電によるディープフリーザの停止）

2

施設・設備の被害状況

工学研究科附属マイクロ・ナノマシニング
研究教育センター



青葉山キャンパス 大学院工学研究科
電子・情報システム・応物系建物



農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター



3

◇外国人学生・教職員の震災後の動向

震災時の外国人留学生数 1, 4 9 9 名

(学部学生 132名、大学院生 1, 043名、その他研究生等 324名)

■震災後の動向：790名(自国 759名、その他 31名)の海外退避を確認

※動向捕捉率から考慮すると約1200名が海外退避したと推定

■新学期開始後の復帰状況：92.2%(在籍者/在籍予定者)

学部学生 97.8%(135/138)

大学院生 99.0%(1,117/1,128)

非正規生 70.9%(280/395)

震災時の外国人教職員数

348名 (常勤 169名、非常勤 179名)

■震災後の動向：144名(41.4%)が出国

内訳：常勤 66名(39.1%)、非常勤 78名(43.6%)

■復帰状況(6月7日現在)：ほぼ全員復帰

※出国中2名(6月中旬には復帰予定)

※退職者2名(自国へ1名、日本他機関へ1名)

4

◇学内避難所を設置（４ヶ所）

学生、教職員、受験生と保護者、近隣住民が避難

※震災当日から３月１６日まで、延べ計約２，０００人が避難

非常食、炊き出し、飲料水、布団等を給付（支援物資等を活用）

片平さくらホール（片平キャンパス）
工学系総合研究棟（青葉山キャンパス）

川内体育館（川内キャンパス）
星陵体育館（星陵キャンパス）



川内体育館避難所



星陵体育館避難所

5

◇学事関係

■平成２２年度学位記授与式中止
（学位記、総長告辞を４月上旬に郵送）

■学部・大学院入学式
新入生オリエンテーション
４月６日→５月６日に変更
（部局単位で実施）

■授業開始日

全学教育（学部１、２年次）

５月 ９日

学部専門授業及び大学院授業

４月 ２５日



6

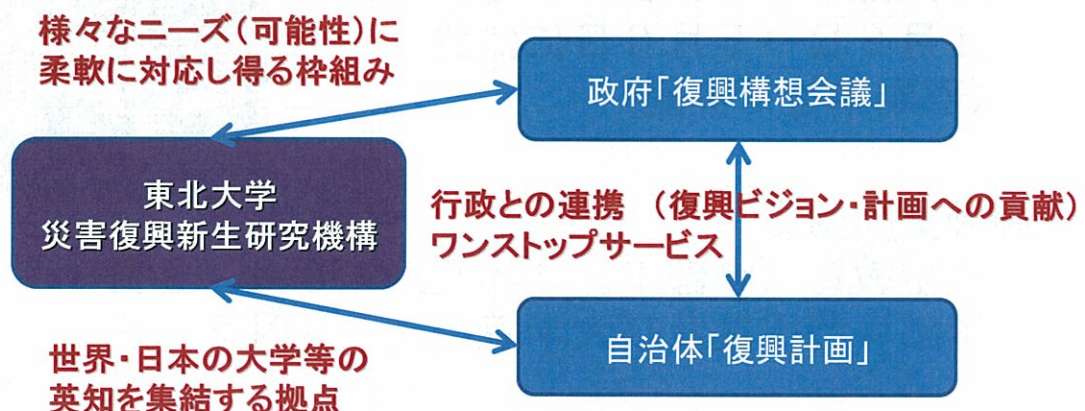
- ① 地震の専門家としての情報発信
- ② 地域医療を護る東北大学病院
- ③ 放射線を扱う専門家としての活動
- ④ ロボット工学技術の提供
- ⑤ 学生の活力、奉仕精神-被災地でのボランティア活動
- ⑥ 震災に関する情報発信とアーカイブ化

7

東北大学災害復興・地域再生重点研究事業構想

東北大学災害復興新生研究機構の創設

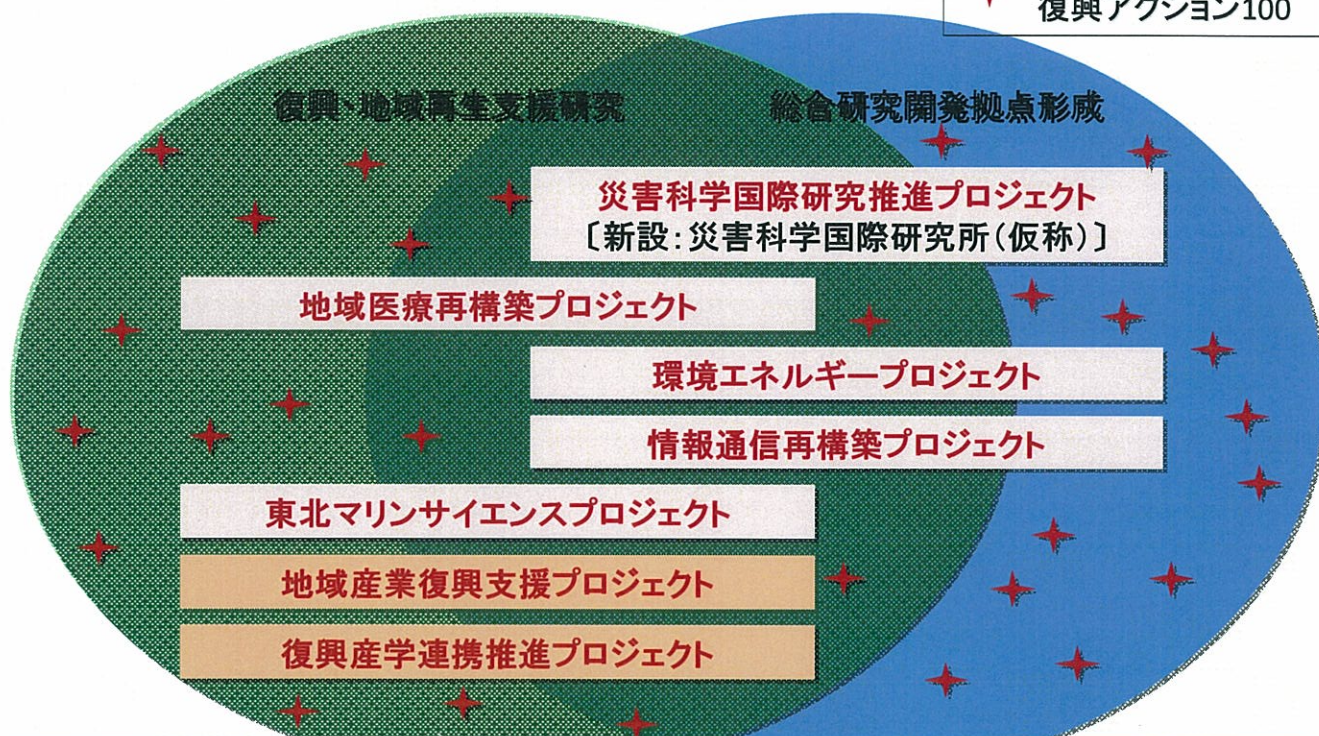
東日本大震災の被災地域における中核大学として、被災からの復興・地域再生を先導する研究・教育・社会貢献等に戦略的かつ組織的に取り組み、その成果を発信・実践する。



8

プロジェクト

★ 東北大学
復興アクション100



地域に根ざした社会・くらしの再生

世界をリードする先端科学技術

プロジェクトは、自律的(自立的)運営を基本とするが、プロジェクトリーダー会議等を通じて復興推進のための連携を強く図る